

# 「海と日本人に関する意識調査」 について

2022年7月15日



01

---

調査サマリー

# 「海と日本人に関する意識調査」

2017年より2年毎、日本人の海に対する感情や認識がどのように変化していくかさらに社会の動向や情勢によってどのように遷移するかを定点観測し、今後のプロジェクトの立案や政策提言などに役立てることを目的にしています。

## 調査概要

目的	世界的な海洋危機が叫ばれる中、現在の日本人の海への意識、行動の実態を明らかにすることで、日本人と海との関わりにおける課題を抽出し、今後の海との関係性向上に貢献する。
対象	日本国内に居住する15歳～69歳の男女個人
抽出	調査会社に登録するモニターより、上記条件にあてはまる人を以下の割付に基づき無作為抽出（層化抽出）
抽出	インターネット定量調査
回収数 (有効回答数)	合計 11,600サンプル 10歳代（15～19歳） 2,200サンプル 20歳代～60歳代 9,400サンプル（各都道府県200 性年代均等割付）
調査期間	2022年6月10日～6月15日

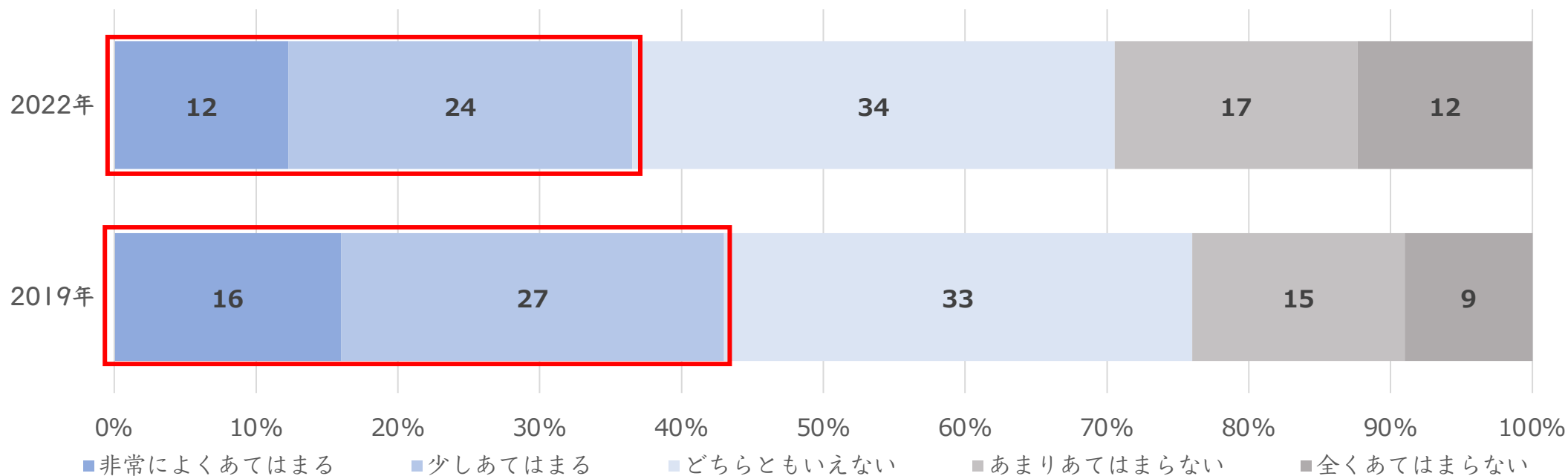
1 - 1

海へ行く機会と、海への意識

# 「海にとっても親しみを感じる」2019、2022年比較

- 「親しみを感じる」と答えた人は、2022年は37%。
  - ・ 2019年は44%。比較すると7pt 減少した。

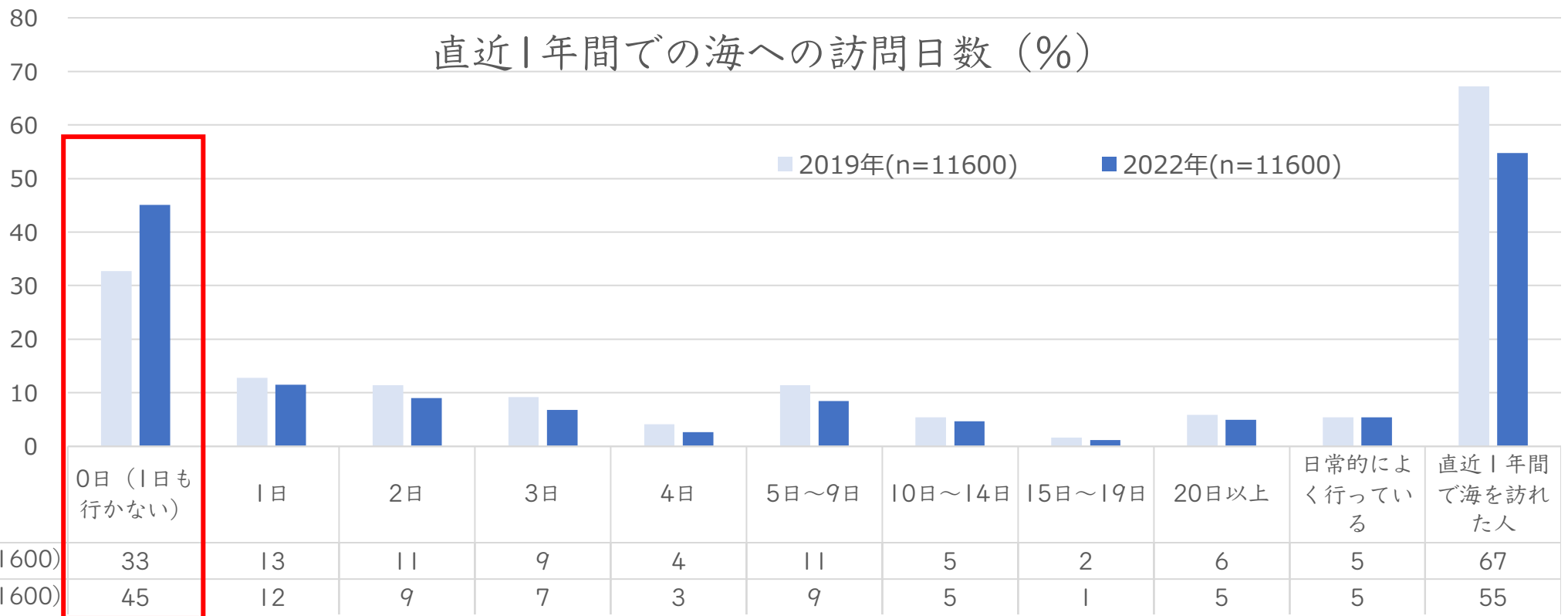
「海にとっても親しみを感じる」 (%)



※小数点以下は省略しています  
※全ての年で回答数はn=11600

# 「海への訪問日数」について

- 約半数の人が、この1年1度も海に行かなかった。
- ・ 2019年は33%。

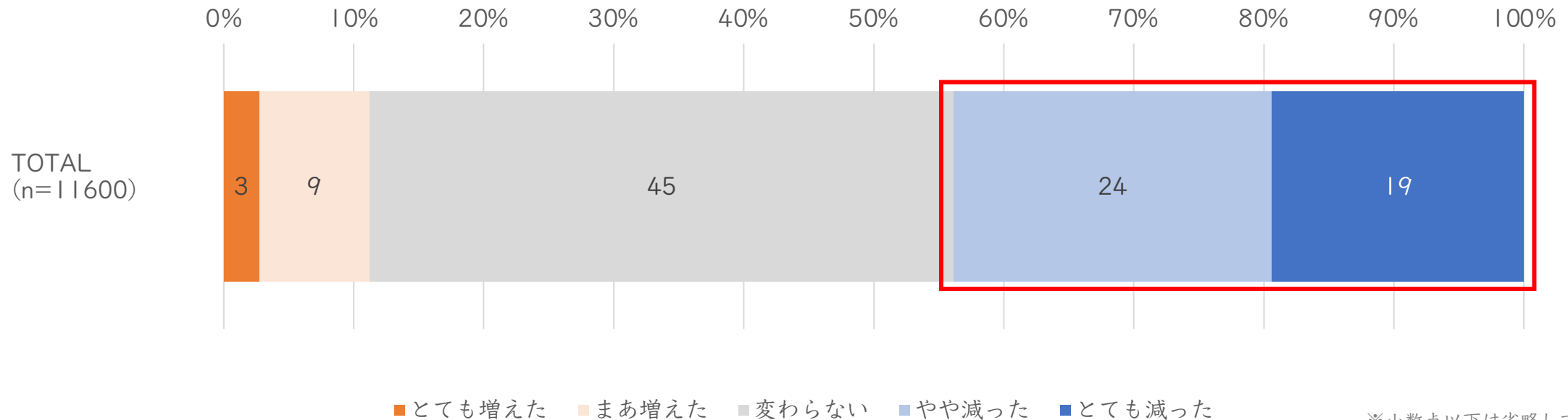


※小数点以下は省略しています

# コロナ前との、屋外活動の変化

●コロナ前と比較して、屋外での活動が「減った」人は、43%。

2019年(コロナ以前)と比較して屋外で活動する機会は増えたか (%)

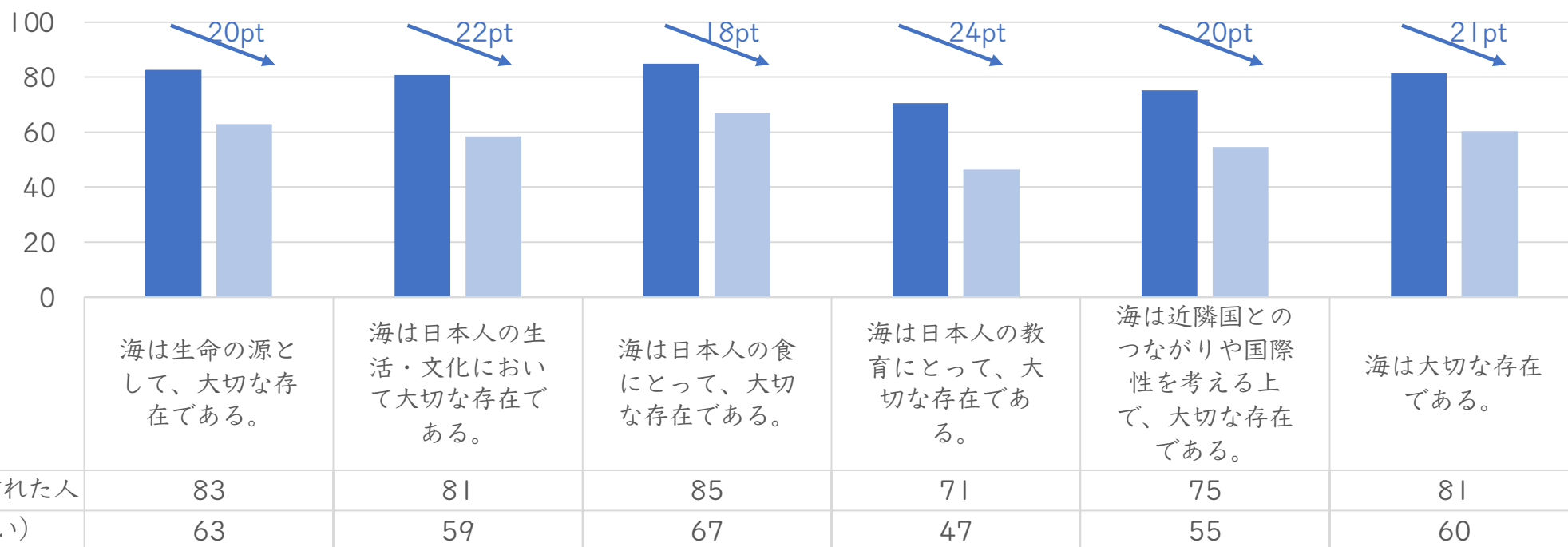


※小数点以下は省略しています

# 「海へ行く機会」と「海への関心」の関係

- 「この1年で海へ行っていない人」は「行った人」より、「海を大切に思う気持ち」が、20ptほど低い。

海への関心 (%)



※小数点以下は省略しています ※直近1年で海を訪れた人回答数 n=6370、0日 (1日も行かない) n= 5230

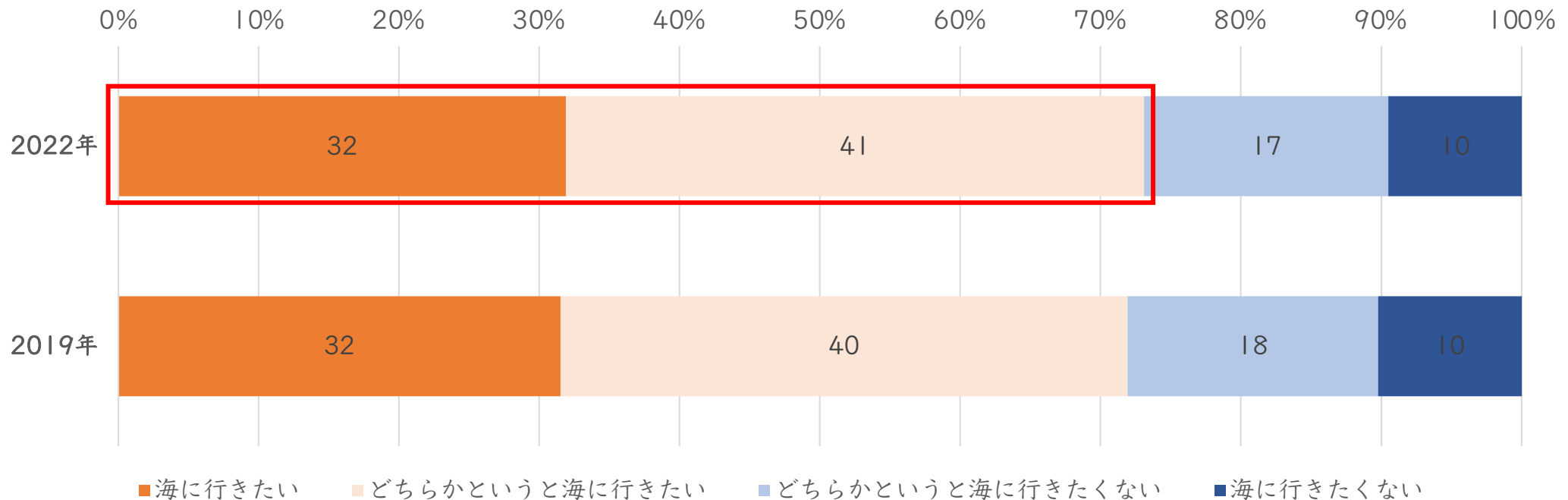


# 「海に行きたい」気持ち

## ● 7割以上が「海に行きたい」

- ・ 2019年と比べても「海に行きたい」気持ちの変化は、ほぼない。

海にいきたいかどうか(%)



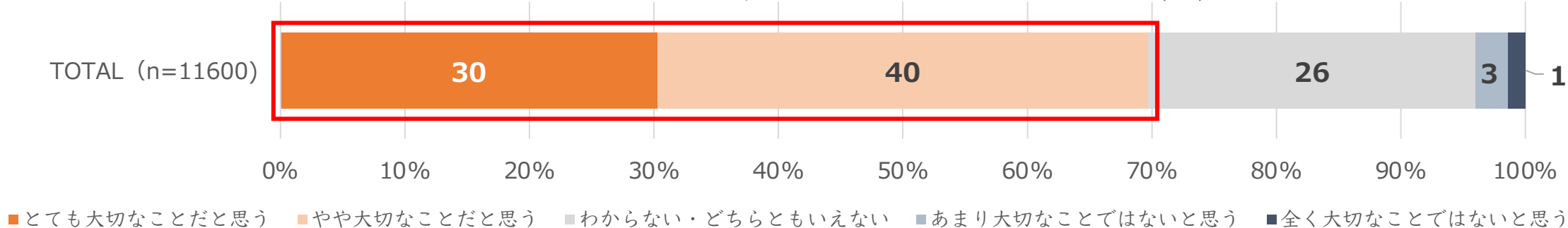
1 - 2

子どもの頃の海体験

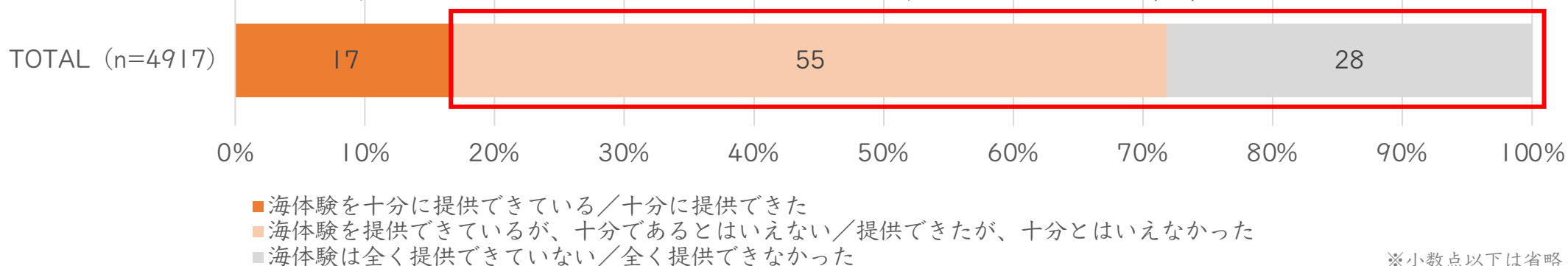
# 子どものうちに、海体験があることについて

● 7割が「子どもの頃の海体験があることが大切だと思う」と回答  
一方で、自身の子に「十分に海体験を提供できていない」親が8割

子どものうちに海にふれる／海体験があることについて (%)



自身の子どもに海体験を提供できているか／できていたか (%)

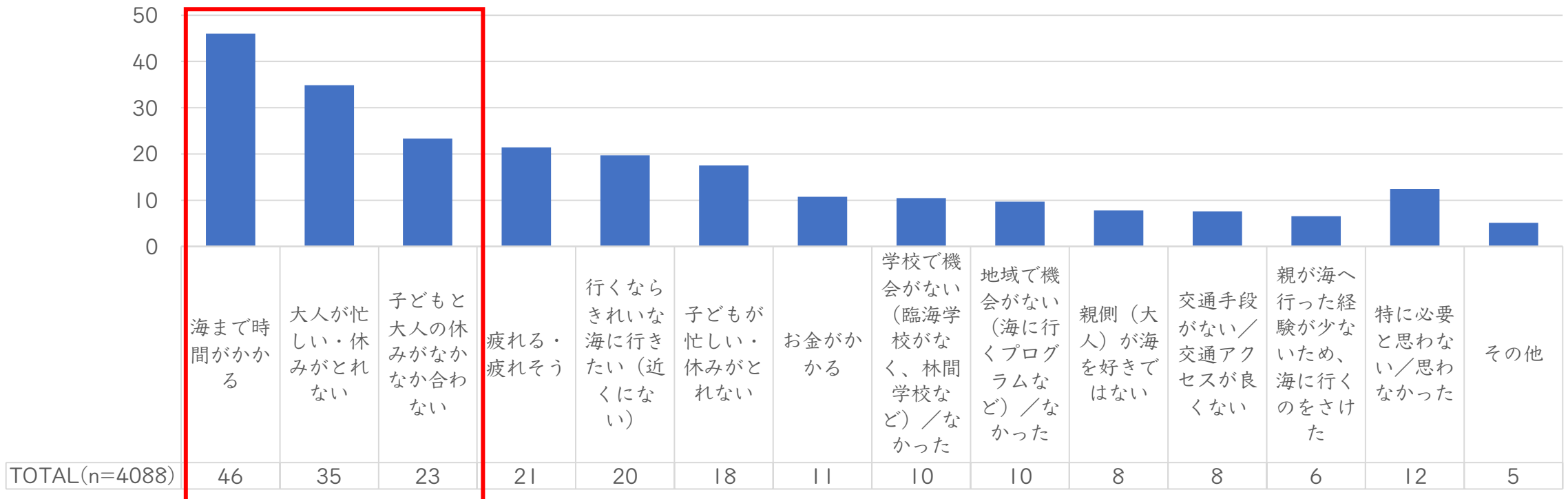


※小数点以下は省略しています

# 自分の子どもへ海体験が提供できない理由

- 子どもへ海体験を提供できない理由で多かったものは、  
「海まで時間がかかる（46%）」  
「大人が忙しい・休みが取れない（35%）」  
「子どもと大人の休みがなかなか合わない（23%）」

子どもへの海体験の提供が十分にできていない理由（%）

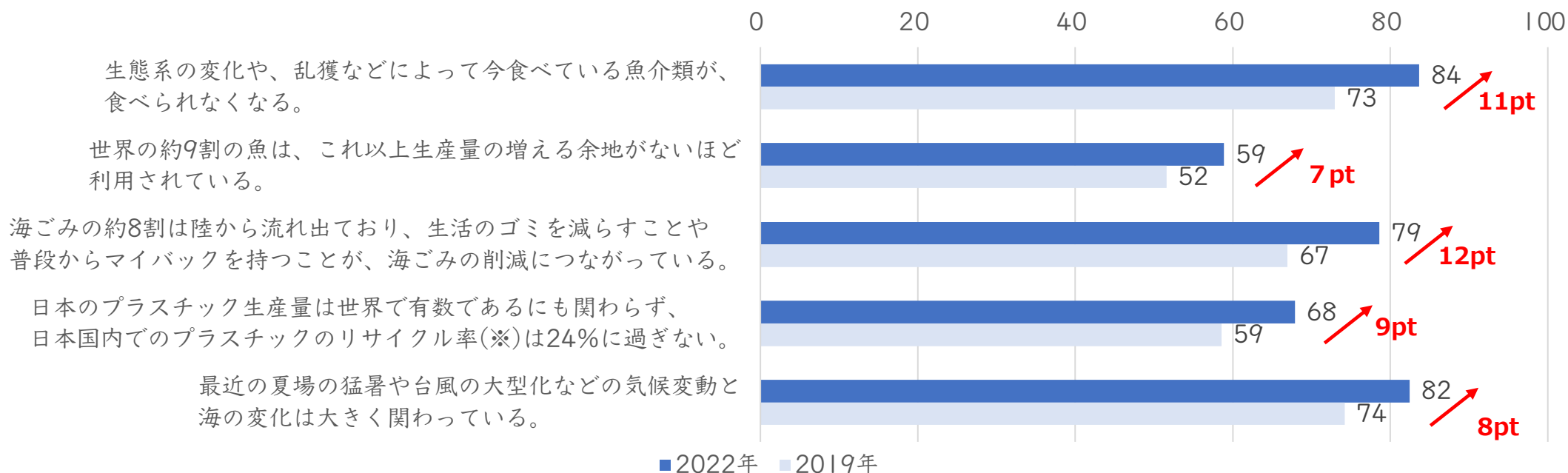


1 - 3

海を守る行動・海洋問題への意識

## ●海洋問題の認知度が、 2019年と比べて、全体的に10pt前後高まった。

海洋問題の認知度（事実をよく知っている+なんとなく知っている計）（%）



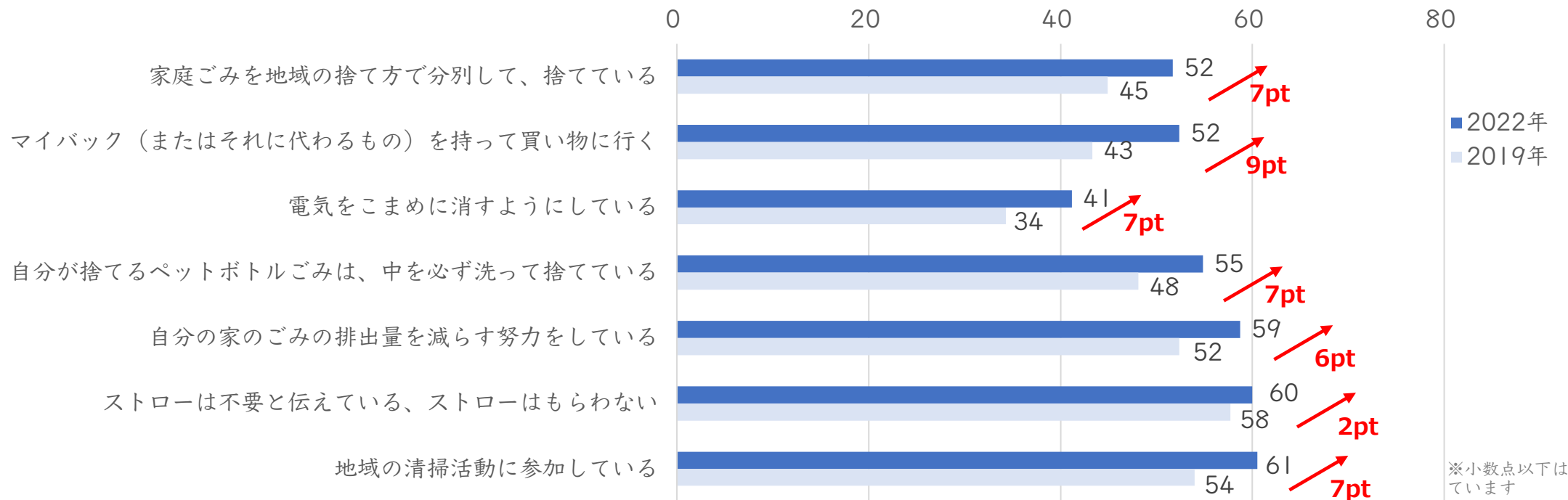
※廃棄物を焼却する際に出る熱エネルギーを回収・利用する熱回収を除く。この熱回収（サーマルリカバリー）は廃棄物そのものを再利用する手法ではないため、海外ではリサイクルとは認められておらず、日本でもリサイクルとは分けて考えるようになっていく。 ※上記は、2019年調査時と同様の事項を聴取した項目のみを表示している。

※小数点以下は省略しています ※全ての年で回答数はn=11600

# 海を守る行動への意識

- 「海を守ることにつながる行動」を意識して行った人は、2019年に比べて、全体的に平均6pt以上、増加した。

行動が「豊かな海を守ることにつながる行動」だと意識していたか (%)



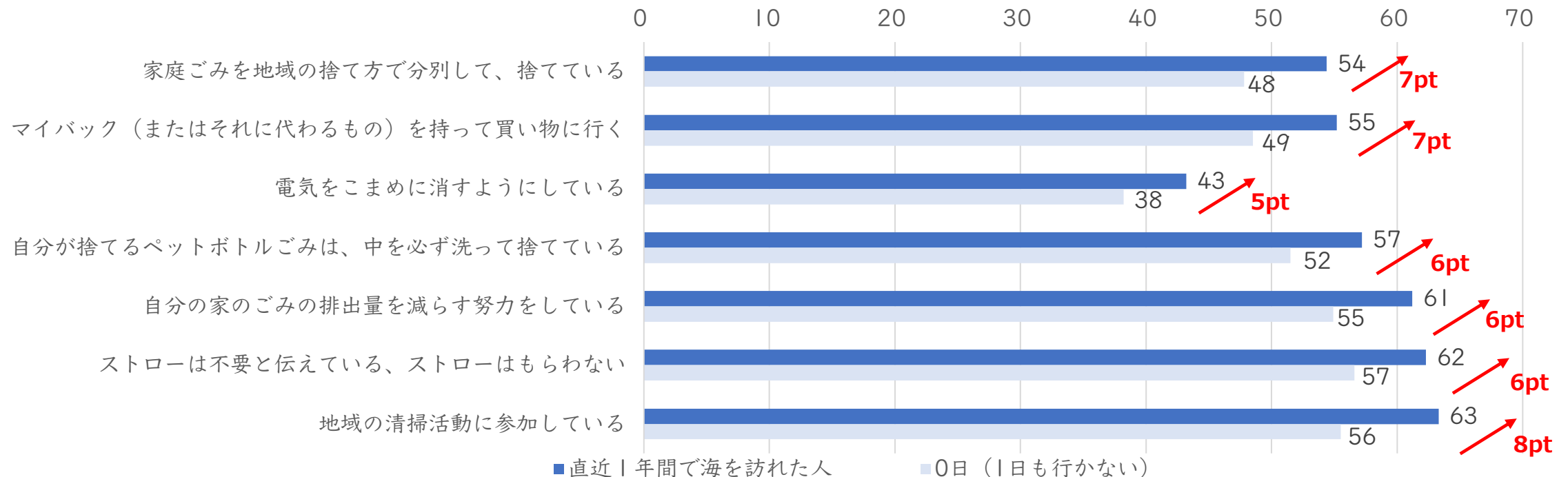
上記の他同設問では、「生活排水に配慮している（油を直接流さずに、ふき取って捨てる/環境に優しい洗剤を使う）」 「浜辺で自分たちが出したゴミを持ち帰る」を聴取している。「地域の家庭ごみの捨て方を知っている（燃える/燃えない、プラスチックゴミはどちらに入るか、資源ごみなど）」を聴取している

※小数点以下は省略しています  
※回答者ベースは上述の行動を行ったと回答した人

# 海を守る行動への意識と、「海を訪れること」の関係

- 「この1年で海に行った人」の方が、「行っていない人」より「海を守ることにつながる行動」を意識して行っている。その割合は、5～8ptほど高い。

行動が「豊かな海を守ることにつながる行動」だと意識していたか (%)



※小数点以下は省略しています ※回答者ベースは上述の行動を行ったと回答した人



# 02

---

定点調査結果から  
わかるトレンド

## 「海へ行く機会と、海への意識」

- 2019年(コロナ前)と比べて屋外での活動が4割減少し、それに伴い「海に行く人」も減った。
- その影響で「海が好き」「海に親しみがある」などの“海への愛着”が減少した。
- また、「この1年間、海に行っていない人」は、「海に行った人」に比べて「海を大切に思う気持ち」が低い。
- 一方、「海に行きたい」という行動意向は減っていない。

## 「子どもの頃の海体験」

- 7割の人が「子どもの頃の海体験が大切だと思う」と回答。しかし、実際には8割の人が、「子どもに海体験を十分に提供できていない。」

## 「海を守る行動・海洋問題への意識」

- 2019年と比べると、海洋問題の認知度が全体的に向上し、海を守ることにつながる行動を行う人も増加した。さらに、海に行った人のほうが「海を守ることにつながる行動」を意識して行ってる人が多かった。

03

---

トピックス

3 - 1

海との関係性 47都道府県別

# 愛着スコア

海との関係性を以下、5つの設問でスコア化したもの

- 1 海は私の人生にとって、かかせないものだ
- 2 海が好きだ
- 3 海にととても親しみを感じる
- 4 海と接していると、心地よく感じる
- 5 海を愛している

# 体験スコア

海との関係性を以下、5つの設問でスコア化したもの

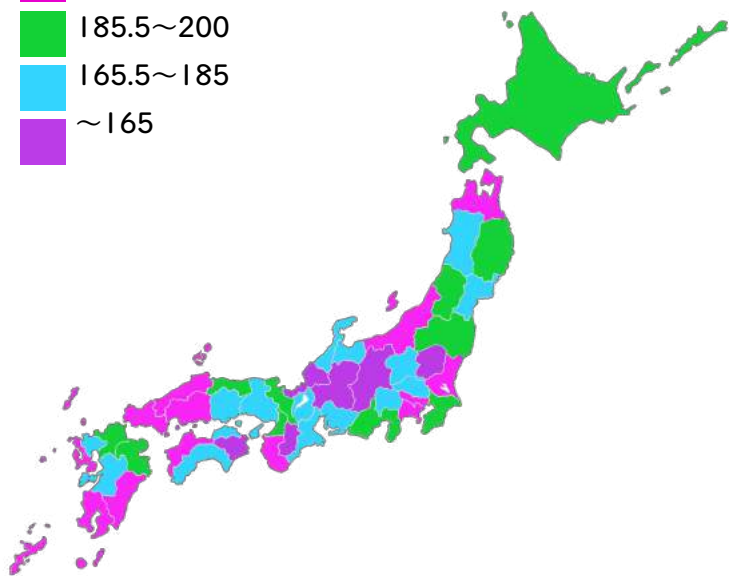
- 1 海に入ることが好きだ（海水浴、サーフィン、ダイビングなど）
- 2 海のまわり、砂浜で遊ぶのが好きだ（潮干狩り、磯遊び、砂浜遊び）
- 3 海を見て楽しむのが好きだ（海へのドライブ、浜辺の散歩、海からの朝日、沈む夕日を見る）
- 4 海の幸を食べることが好きだ（魚、貝、海藻類、だし）
- 5 海に関するコンテンツ（本、映画、TV番組、水族館、動物園などを見たり、楽しんだりするのが好きだ）

# 海との関係性 愛着 - 47 都道府県別ランキング -

●海との関係性「愛着」スコア、47都道府県トップは沖縄県。

2位は、宮崎県。3位は、長崎県。

## 海 愛着 ランキング



- 1 沖縄県 298.4
- 2 宮崎県 233.4
- 3 長崎県 232.3

4 鹿児島県	217.0	26 岡山県	181.8
5 新潟県	216.3	27 秋田県	181.3
6 山口県	213.8	28 滋賀県	180.8
7 愛媛県	210.0	29 香川県	180.8
8 島根県	208.4	30 宮城県	179.8
9 青森県	207.2	31 高知県	178.9
10 神奈川県	205.6	32 兵庫県	178.5
11 東京都	204.1	33 石川県	178.2
12 茨城県	203.8	34 埼玉県	176.9
13 広島県	203.1	35 三重県	176.3
14 和歌山県	201.0	36 富山県	176.1
15 福岡県	198.6	37 熊本県	176.1
16 福島県	195.1	38 山梨県	175.5
17 北海道	193.3	39 佐賀県	173.1
18 鳥取県	191.6	40 愛知県	166.1
19 京都府	191.5	41 群馬県	165.9
20 大阪府	190.5	42 奈良県	158.6
21 岩手県	190.1	43 徳島県	156.8
22 静岡県	188.7	44 福井県	151.2
23 千葉県	188.5	45 長野県	147.6
24 山形県	187.8	46 栃木県	146.1
25 大分県	187.6	47 岐阜県	143.1

## 「愛着」

トップ3

1位	沖縄県	298.4
2位	宮崎県	233.4
3位	長崎県	232.3

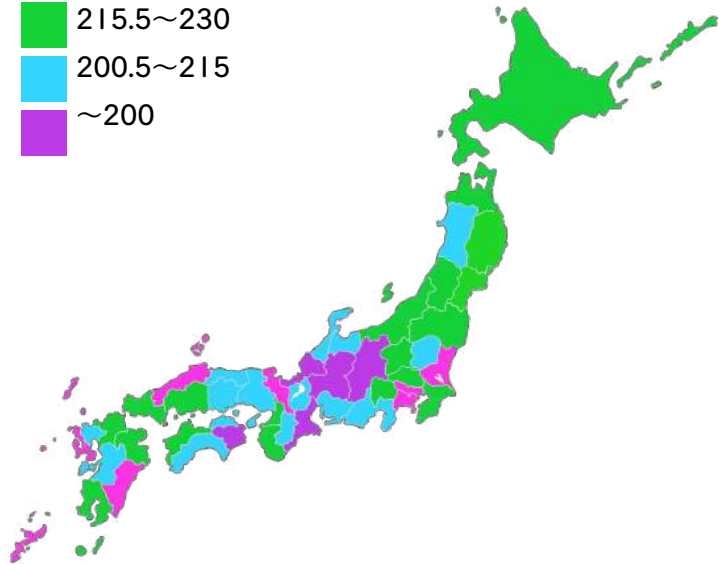
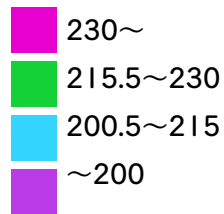
※スコアの算出方法

・「愛着」5つの質問の5段階評価（非常によくあてはまる、少しあてはまる、どちらともいえない、あまりあてはまらない、全くあてはまらない）のトップ2ボックス（非常によくあてはまる+少しあてはまる）合計パーセントを全て足しあげて算出・ランキングは本調査対象者全サンプルが対象。

# 海との関係性 体験 - 47 都道府県別ランキング -

●海との関係性「体験」スコア、47都道府県トップは沖縄県。  
2位は、宮崎県。3位は、長崎県。

## 海体験 ランキング



- 1 沖縄県 268.8
- 2 宮崎県 241.0
- 3 長崎県 240.5

4	東京都	239.6	26	山形県	219.0
5	神奈川県	235.0	27	北海道	216.7
6	京都府	234.9	28	奈良県	214.7
7	茨城県	233.3	29	岡山県	214.6
8	鳥根県	232.4	30	愛知県	214.2
9	鹿児島県	229.7	31	滋賀県	213.9
10	青森県	229.1	32	鳥取県	213.8
11	愛媛県	226.9	33	秋田県	211.4
12	広島県	225.5	34	熊本県	211.1
13	山口県	225.1	35	香川県	210.6
14	山梨県	224.4	36	兵庫県	209.9
15	宮城県	223.2	37	栃木県	207.5
16	福岡県	222.7	38	富山県	207.0
17	岩手県	221.0	39	高知県	206.5
18	大阪府	220.9	40	佐賀県	205.9
19	埼玉県	220.7	41	静岡県	204.4
20	千葉県	220.3	42	石川県	201.2
21	群馬県	220.1	43	長野県	198.7
22	和歌山県	219.8	44	福井県	198.4
23	福島県	219.7	45	徳島県	198.4
24	大分県	219.2	46	岐阜県	198.0
25	新潟県	219.1	47	三重県	194.8

## 「体験」

### トップ3

1位	沖縄県	268.8
2位	宮崎県	241
3位	長崎県	240.5

※スコアの算出方法

・「体験」5つの質問の5段階評価（非常によくあてはまる、少しあてはまる、どちらともいえない、あまりあてはまらない、全くあてはまらない）のトップ2ボックス（非常によくあてはまる+少しあてはまる）合計パーセントを全て足しあげて算出・ランキングは本調査対象者全サンプルが対象。



3 - 2

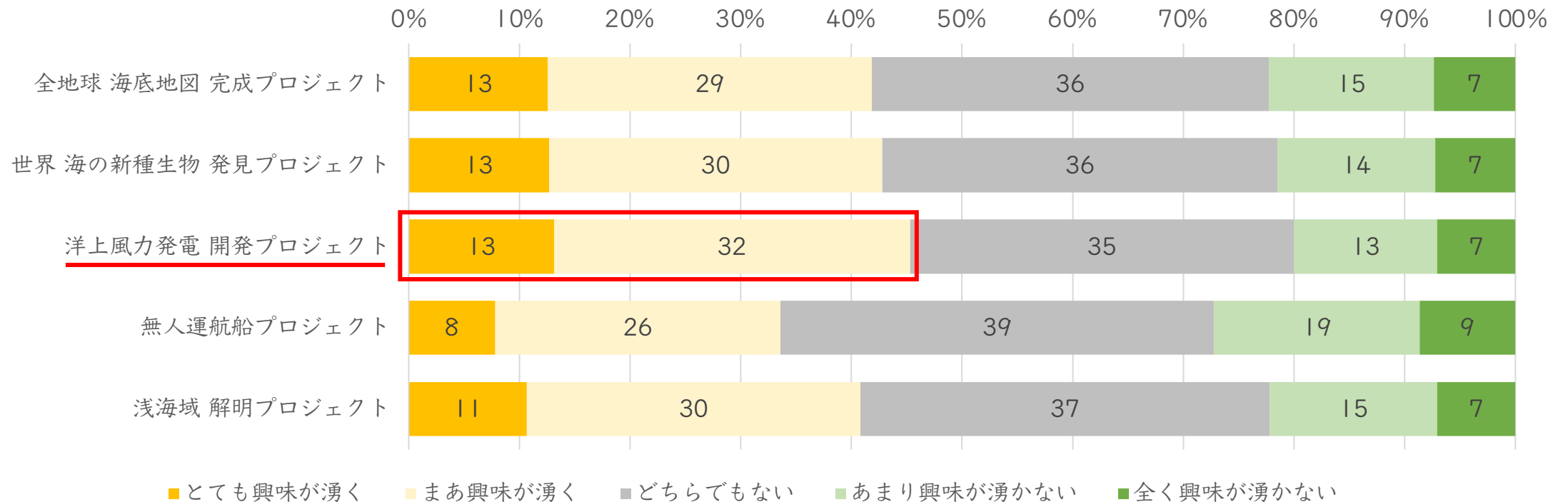
海の未来のプロジェクトへの関心

# 海の未来のプロジェクトへの関心

●全体的に「興味がある」は約4割。

もっとも関心が高いのは「洋上風力発電開発プロジェクト」で45%。

海の未来プロジェクトへの関心 (%)

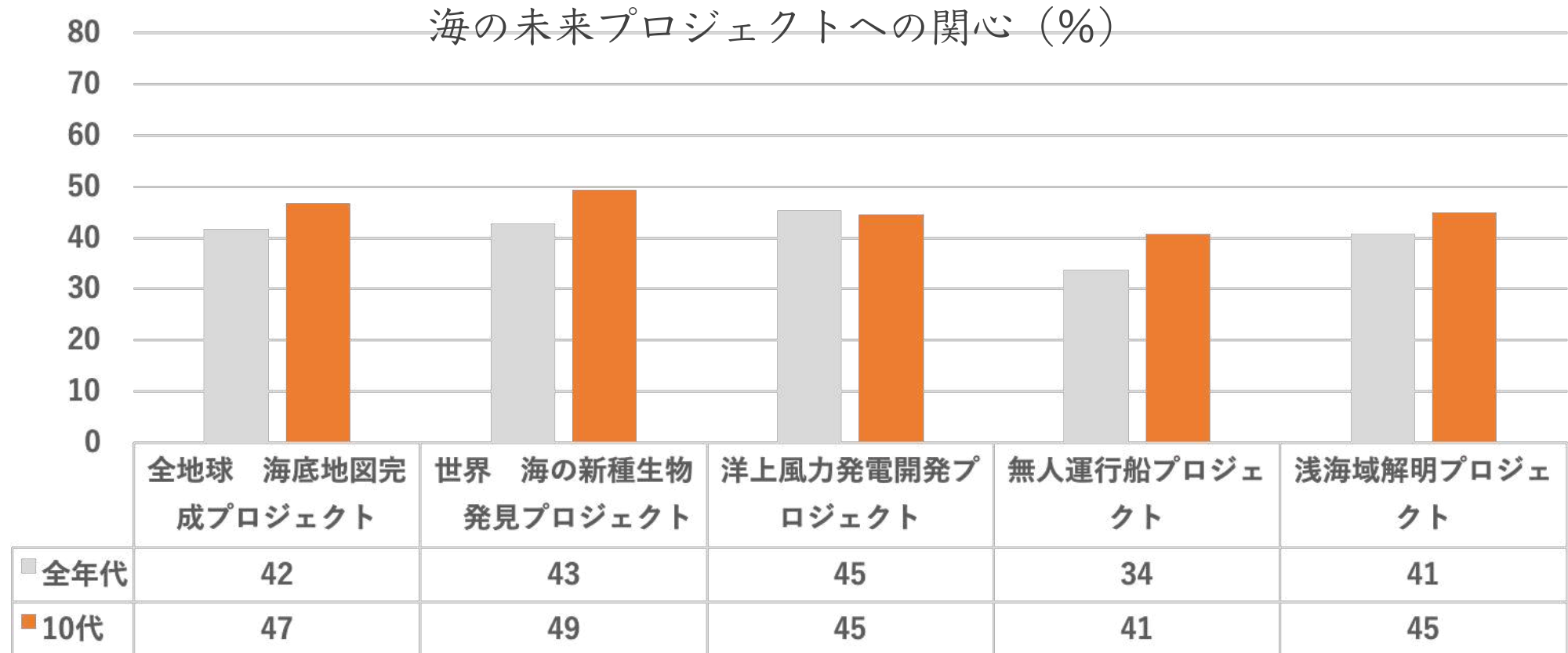


※小数点以下は省略しています ※全ての項目で回答数は n=11600

# 海の未来のプロジェクトへの関心

●10代は 全年代よりも、海の未来のプロジェクトに関心が高い。

「海の新種生物発見プロジェクト」がトップで、2人に1人は関心がある。

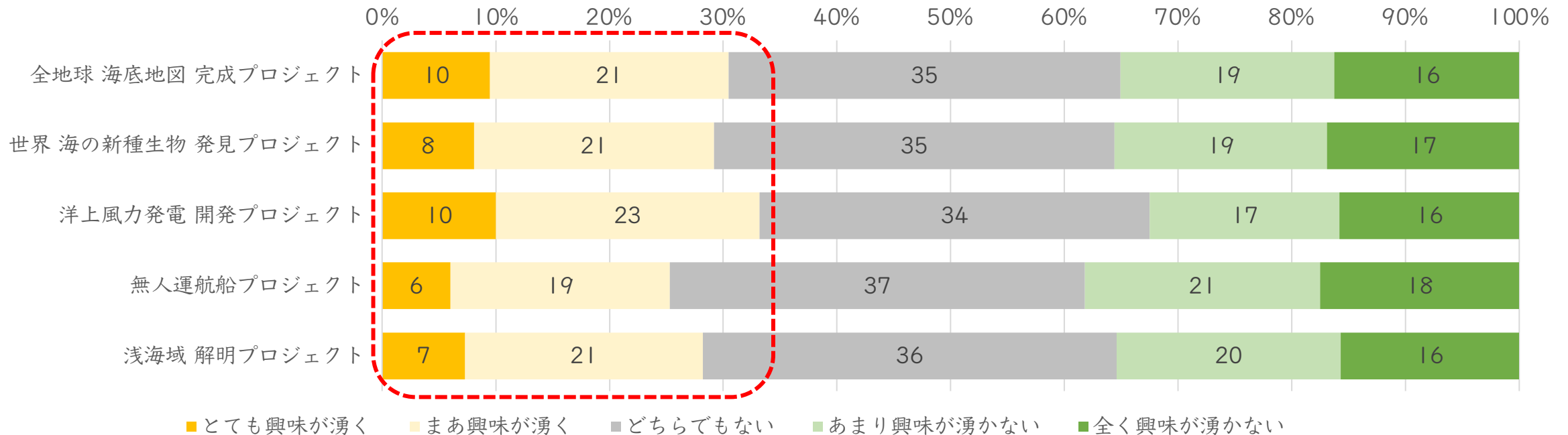


# 海の未来のプロジェクトへの関心

● 「海が好きではない」人でも、約3割は興味を示している。

海の未来プロジェクトへの関心 (%)

(ベース：Q1(2)海が好きだで「全く当てはまらない」「当てはまらない」回答者 (n=2238))



※小数点以下は省略しています

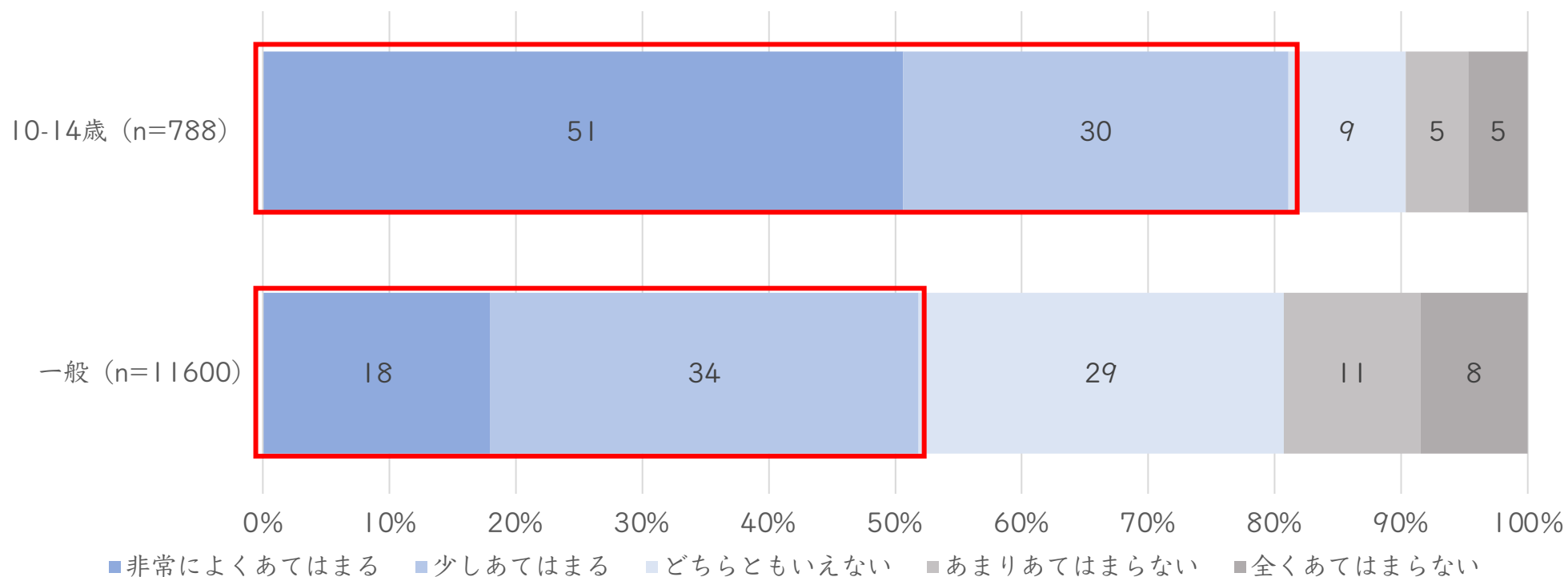
3 - 3

海と日本プロジェクトに  
関わりのある子どもたち

# 「海が好きだ」 -海と日本プロジェクトに関わりのある子どもたち-

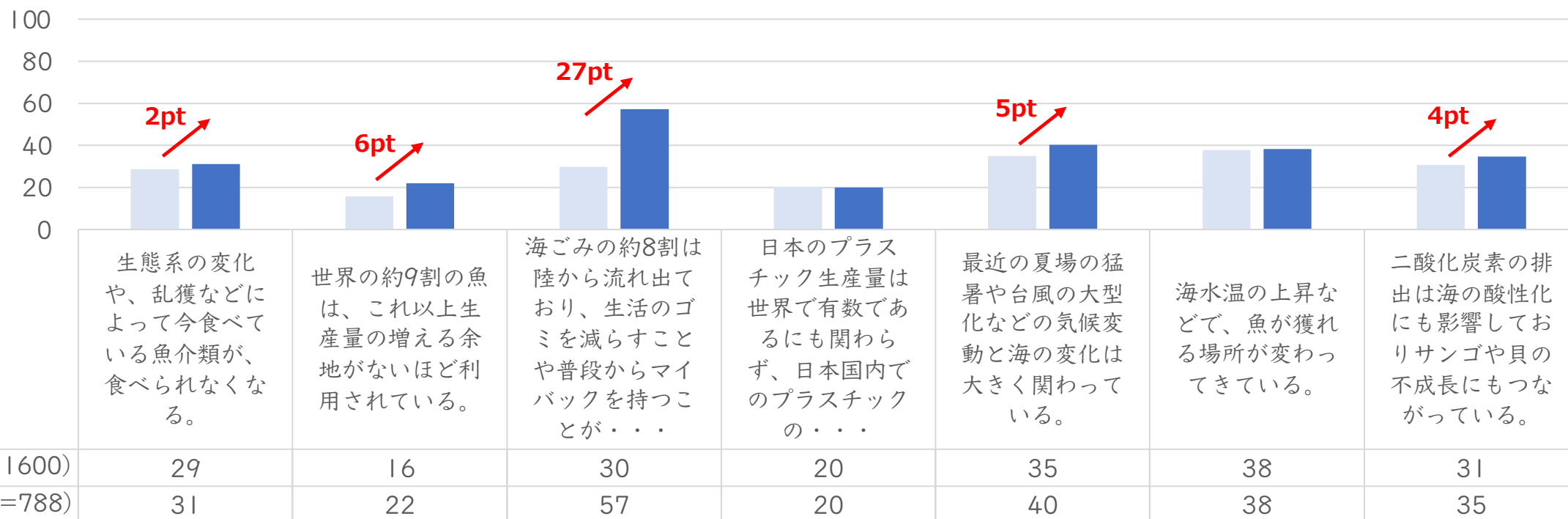
- 「海が好き」が81%。  
一般の52%と比べて、29pt高い。

「海が好きだ」 (%)



●複数の項目で「事実をよく知っている」割合が、一般の人よりも高い。

海洋問題の認知度（事実をよく知っている）（%）



04

---

まとめ



# 今後の海との関係づくりにおける考察

01

「海への訪問頻度」と「海への愛着」高さは比例するため、全国の地方自治体やメディア、地域コミュニティ等と連携して、「海に行く機会」を促す情報発信やコンテンツを強化。

02

地球環境問題の関心が高まると共に「海を守ることに繋がる行動」や「海洋問題への認知」も向上している。教育面では、海が「子どもの学習機会」となる良質なコンテンツと場づくりを提供していく。

03

コロナが更に長期化する状況を鑑み、海に行かなくても海を感じたり、想いを馳せることができる水族館や、映像やデジタルコンテンツ等、新たな海との関係づくりも視野に。



日本  
財団

THE NIPPON  
FOUNDATION